

岩手医科大学報

Iwate Medical University News

2012・1 vol.424

●発行者—学長 小川 彰 ●題字—理事長 大堀 勉

新年のご挨拶

岩手医科大学 学長 小川 彰



新年のご挨拶を申し上げます。

昨年は、3.11大災害によって、大変な1年でした。被災された皆様に改めてお見舞い申し上げます。

災害時の医療の実践、管理、医療復興に対する様々な提言を行いつつ、発災後、刻一刻と変化する状況下で、全国からのご支援を受けながら適切な医療を効率よく被災地はじめ全県に常に提供し続けることが出来ました。被災県の中で岩手県の統制のとれた適切な医療提供体制は高く評価されており、その中心には本学の教職員一丸となった獅子奮迅の働きがあったものと思います。

しかし、復興・再生への道のりは今後も更に遠く、いばらの道でしょう。本学も昨年に増して努力を強いられることになると思います。

この春にはドクターヘリ運用が始まります。また、国のご支援を受け矢巾A敷地の北端—将来矢巾本院と連動する立地に—東講義実習棟と同じ規模で「災害時地域医療支援教育センター」を含む「マルチメディア教育研究棟」を整備し

ます。関連して、災害医学講座、災害精神医学講座、こころのケアセンター、被災地住民1万人を対象とした長期の健康調査をはじめ災害関連の様々な事業を同時進行させなければなりません。

「矢巾本院」「内丸メディカルセンター」整備もまったなしで進めなければならなくなりました。また、歯学部にあっては厳しい状況が続いていますがハーバード大学の協力によって「改革プロジェクト」が進められています。名門歯学部を取り戻すよう大いにご努力いただきたいと思います。更に、薬学部は24年度末で初めての卒業生を世に出し、遂に念願の完成年度を迎えます。これに伴い大学院設置申請を行い、将来的には医歯薬統合大学院へ育てて行く事が求められています。

この様に、様々な大学改革ばかりでなく、様々な新規事業を進めなければならない年です。教職員の皆様には傍観者ではなく、大学改革の真ただ中の責任ある当事者であることを自覚され一層のご努力を頂く事を切にお願い申し上げます。年頭のご挨拶といたします。



第二次事業完成後の 内丸キャンパス再利用計画工事と 附属病院移転整備事業について

総務部長
兼 総合移転計画事務室長

遠 藤 厚



平成23年3月8日、附属病院移転に先だって、医学部・歯学部基礎系講座の移転施設となる総合移転整備計画第二次事業の落成祝賀式が岩手県・矢巾町をはじめ多くの来賓の方々を迎えて盛大に挙行されました。

しかし、その3日後の3月11日、M9.0の地震、そして大津波による未曾有の東日本大地震・大津波大災害が発生し、本学においても、内丸・矢巾・花巻などの施設全域に亘って総額2億円を超える大きな被害を受けました。またこの影響により、引越し作業、その後に予定されていた移転跡地の再利用計画も2ヶ月ほど遅れることとなりました。

今回は、平成23年4月より、移転跡地の有効利用と病院移転に向けた機能の充実、診療体制整備を目的としました「内丸キャンパス学部移転跡地 附属病院整備工事」の進捗状況と今後予定されています総合移転整備計画につきましてご紹介致します。

医学部臨床系講座 移転工事

医学部基礎系講座が移転した跡地（2号館2～4階・3、4号館1階～6階・5号館2階～5階）には、外来棟3階から医学部臨床系講座（医局・教授室等）が9月末に移転完了を致しました。

移転にあたっては、廊下に並べられていましたロッカー類につきまして、すべて室内に収めていただくことを条件に部屋の面積を今までの1.5倍から2倍に広げております。

これにより、消防査察の際に指摘を受けておりました物品が取り除かれ、本年度の消防査察では現状の防災体制を維持するよう講評を受けております。

また、工事を進める際には病院が移転するまでの暫定的な措置であることを理解いただき、工事費用削減の協力を併せてお願い致しました。



呼吸器・アレルギー・膠原病内科分野

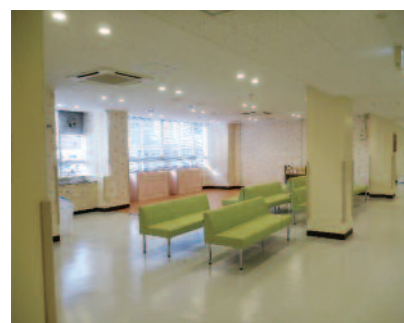


心血管・腎・内分泌内科分野

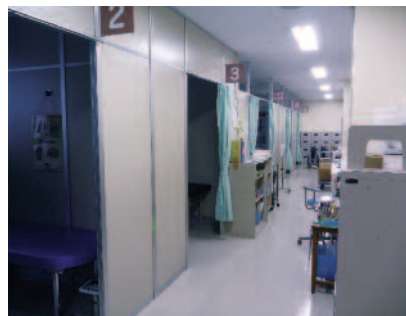
外来棟3階外来フロア増設工事

医学部臨床系講座のありました外来棟3階の跡地には、東病棟3階より麻酔学講座が移転をするとともに、外来2階にありました「心血管・腎・内分泌内科」・「血液・腫瘍内科」・「小児科」の外来が移転、また、患者さんへの術前説明等を目的として「麻酔科外来」が増設されています。

このフロアの改修では、できるだけ開放感のある外来とするため、南側の窓から自然光の取入れを工夫しているほか、LED照明の採用、ガラスの断熱



小児科待合い



心血管・腎・内分泌内科外来



血液・腫瘍内科外来



小児科外来

フィルム施工、高効率空調機の導入を図るなど省エネに配慮した施設となっています。

この新フロアは12月15日に工事が完了し、12月19日午前8時に行なわれた開所式の後診療が開始されております。

なお、開所式は、小児科診察室前でテープカットが行なわれ、小川学長から開所にあたり挨拶がありました。



写真左から：小林附属病院長、小川学長、及川看護部長→

中病棟 2 階外来改修工事

3 階へ移動した外来の跡地には、新たに開設された「緩和ケア科」・「臨床遺伝科」が設けられるほか、今まで他科と診察室を共有し、診療機能改善が求められていた「糖尿病・代謝内科」・「呼吸器外科」・「睡眠医療科」の拡張と機能整備が行われます。

これらの診察室につきましては、3 月まで改修工事が行われる予定です。

東病棟 3 階手術室増室工事

麻酔学講座、ME センター（現 CE センター）がありました東病棟 3 階跡地を再利用して手術室の増設を致しました。

これは、近年の手術件数増加への措置と、6 年後に予定されています附属病院移転に対応して病院機能の向上を目的として行ったものです。

この工事では、新たに No.12 手術室・No.13 手術室を増室するとともに、併せて医師・看護師のスタッフルームや更衣室等、関係者が快適に利用できるようにアメニティーの改善も図られています。この新しい手術室は12月22日に完成し、できるだけ早く稼働したいとの要望から12月29日から稼働を始めております。



No.12手術室前器材置き場



No.12手術室



No.13手術室

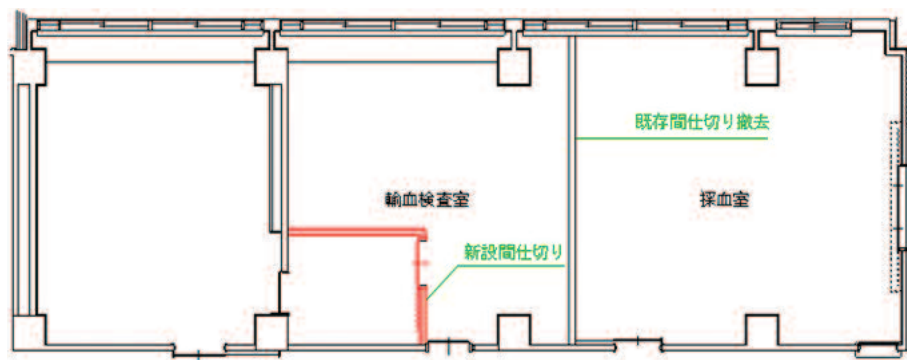
臨床検査部門の改修工事

今回の事業では、恒常的に混雑をしておりました検査受付・採血室の整備も行われる予定です。これは、病理検査部門の一部機能を 5 号館 2 階へ移転し、検査部内のスペースを融通しながら待合室を確保し、採血室の機能を整備するものです。

この工事を行うには、順次部屋を空けていただく必要があることから、工事期間も長期となりますので、検査室のスタッフの皆様には多大なるご協力をお願いするものです。



現在の採血室



検査受付・採血室改修計画図（平成24年1月19日現在）

附属病院移転整備事業について

第二次事業完成による基礎系学部の引越し、その後計画された医学部跡地利用の工事が順調に進む中で、本移転整備事業の総括となる附属病院移転に向けた準備として、目標となる完成年度を目指してC敷地の造成工事が始まっています。

すでに、平成23年2月に着手した造成工事のうち、第一工区に関しましては10月末をもって完成検査を済ませ、12月1日の起工式から年度内での完成、そして新年度からの運行開始を目指してドクターヘリポート格納庫の建設工事が始まっています。

また、残っている第二工区の造成工事につきましては、病院建設工事で排出される土量の有効利用のため、病院の計画工程に併せながら進めていく予定としています。



平成14年に発表された総合移転整備計画構想から今年で10年を迎えます。その間、移転する病院並びに内丸に残る病院の規模・内容につきましては、平成15年に発表された岩手医科大学総合移転整備計画「基本構想のあらまし」として、矢巾地区に800床規模の特定機能病院を、内丸地区に250床規模の外来を中心としたメディカルセンターを計画することを一つの考えとして検討が行われてきました。

しかし10年が経過し、少子高齢化問題や景気低迷、政権交代などの社会情勢の変化に加え東日本大地震・大津波大災害の被害による岩手県の医療政策など、本学の周辺環境が大きく変化をしてくれています。

今、附属病院の移転時期が現実として見え始めてきていますが、大災害による全県的な医療復興とまったく解消されない医師不足への対策は、本学にとっても重要な課題となっています。このような情勢下ではありますが、12月に着手したドクターヘリ基地計画も含めながら、総合移転整備計画策定委員会では病院検討部会長である小川学長を中心として、平成30年の病院移転に向け、具体的なC敷地の土地利用と病院の考え方、附属する施設のあり方について協議を重ねています。

今年度内には、大学としての一定の方向性を見出しながら、来年度から予定をしています基本設計に向けた具体的な協議を進めることとしております。

総合移転整備計画に係る今後の想定工程表

事業内容	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
病院移転用地造成工事	第一工区造成工事	第二工区休工						
ドクターヘリ導入促進事業	実施設計 確認申請	●運行開始						
附属病院移転整備事業	基本構想	基本設計	実施設計 確認申請	矢巾新病院建設工事				●開院
内丸メディカルセンター整備事業 （歯学部建物整備計画含む）		基本設計	実施設計 確認申請	内丸 MC 建設工事				●開院

企業研究セミナーが行われました



12月9日(金)から2日間にわたり、薬学部の学生を対象とした「企業研究セミナー」が矢巾キャンパスの体育館で開催されました。このセミナーは、本格的な就職活動時期を迎えた薬学部学生への就職支援最大イベントとして、昨年度から行われています。

セミナーでは大手製薬会社や官公庁、県内外の病院、薬局など119もの事業所ブースが設けられ、二日間で延べ304名の薬学部学生が各ブースを訪問して熱心に説明を受けました。

リクルートスーツに身を固め、各ブースを訪問した学生は、真剣な眼差しで説明を聞いており、将来の仕事に対する意欲を高めている様子でした。

附属病院でクリスマスコンサートが行われました

12月3日(土)午後2時から本学附属病院外来1階待合ロビーにおいて、クリスマスコンサートが開かれ、入院患者さんやご家族など約200名が一足早いクリスマス気分を味わいました。

このコンサートは本学の学生管弦楽団と小児科病棟に入院中の盛岡青松支援学校の生徒によるもので、今年で17回目の開催となります。

コンサートは、学生扮するサンタクロースの指揮に合わせて「クリスマスフェスティバル」「ふるさと」などアンコール曲を含め計7曲が演奏されました。そのうち、「夢をあきらめないで」「Believe」は盛岡青松支援学校の生徒と合同で演奏され、病気と闘いながらも、この日を目標に練習を重ねてきた成果が披露されました。また、学生が生徒と患者さんの席を回ってキャンディーなどのささやかなクリスマスプレゼントを手渡し、心温まるコンサートとなりました。



平成23年度高大連携ウインターセッションが開催されました



医学部「お医者さんの手技体験」の様子

県内5大学(本学、岩手大学、岩手県立大学、盛岡大学、富士大学)と岩手県教育委員会が主催するウインターセッションが、12月25日(日)から2日間にわたり矢巾キャンパス及び内丸キャンパスで開催されました。

この催しは、高校生が大学に触れる機会を広く提供することで進路意識の高揚と学力の向上へつなげると同時に、高等学校と大学との連携を円滑化して魅力ある大学をつくることを目的として平成15年から行われています。

今年度は、県内の高校生64名が3学部(理学部、工学部、薬学部)の講義と実習を体験し、最終日には受講生一人ひとりに修了証書が手渡されました。参加者に実施したアンケートでは、多数の方から高評価を得ており、貴重な体験となった様子でした。

平成24年新年祝賀式が行われました

平成24年の新年祝賀式が1月4日(水)午後4時から教職員約200名の出席のもと、創立60周年記念館8階研修室で行われました。

祝賀式では、小川学長から「大災害の影響もあり、附属病院移転事業は待ったなしの状況です。将来のためにも、今からしっかりと地盤を固めることができるよう職員の皆様にはご協力をお願いします。本学が昇り龍のごとく発展する年であることを願います。」と年頭のご挨拶がありました。その後は、祖父江副学長により乾杯の発声が行われ、出席した教職員全員が新年を祝い、一年の決意を新たにしました。



表彰の榮譽

本法人評議員・名誉教授の伊藤 忠一 先生が「瑞宝小綬章」を受章しました

本法人評議員で名誉教授の伊藤忠一先生は、平成23年秋の叙勲において瑞宝小綬章を受章しました。

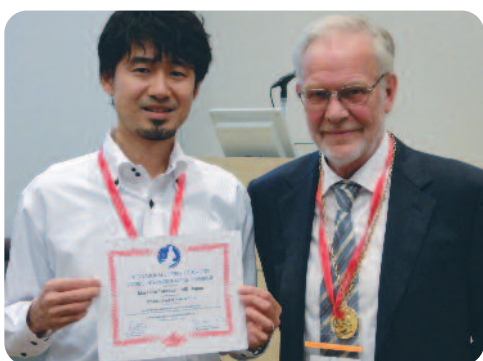
先生は、昭和51年4月に本学中央臨床検査部の教授に任用、昭和57年4月に臨床検査医学講座の初代教授に就任しました。また平成11年4月には医学部長に就任し、医学部の発展・運営に尽力され、平成13年4月に名誉教授の称号が授与されました。

研究面では、カテコールアミン*代謝とその代謝産物の臨床応用、白血病ウイルスの母子感染予防証明など臨床検査医学の分野において先端技術の開発とその臨床応用に幅広い業績を残しました。

※カテコールアミン：脳・副腎髄質及び交感神経に存在する生体アミンの総称



外科学講座 高橋 正浩 助教が万国外科学会で最優秀発表賞を受賞しました



(左)高橋助教、(右)イエラン・オーケストロム氏

医学部外科学講座の高橋正浩助教は、平成23年8月28日から5日間にわたり横浜で開催された第44回万国外科学会において、最優秀発表賞を受賞しました。

本学会は5大陸の都市で2年に一度だけ開催される国際外科大会で、日本では1977年の京都開催以来、34年ぶりの開催となっており、世界68カ国から約1,800名が集まり熱心な討論が展開されました。

高橋助教の発表演題は「腹腔鏡補助下生体肝移植ドナー手術(Laparoscopy-assisted living donor hepatectomy)」で、本学で行われている腹腔鏡補助下生体部分肝移植手術が高く評価されました。

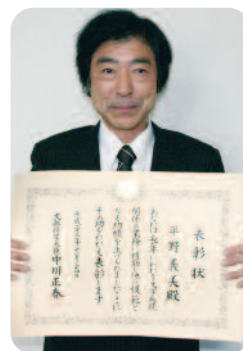
表彰式では、2013年に同学会長を務めるイエラン・オーケストロム氏から表彰を受け、副賞として1,000ユーロが手渡されました。

及川 政之助 さん・平野 義美 さんが 文部科学大臣表彰（医学教育等関係業務功労）を受賞しました

本学附属病院栄養部調理師長の及川政之助さん（左）と附属花巻温泉病院リハビリテーション室主任理学療法士の平野義美さん（右）は、11月23日(木)に文部科学大臣表彰（医学教育等関係業務功労）を受賞しました。

この賞は、国立、公立及び私立の大学における医学又は歯学に関する教育・研究若しくは患者さんの診療等に係る補助的業務に関し顕著な功労のあった方々を表彰することにより、関係職員の士気を高揚し、医学又は歯学教育の充実向上を図ることを目的として、昭和49年から実施されています。

及川さんは昭和50年10月に、平野さんは昭和59年9月にそれぞれ採用され、本学における医学教育・研究及び大学病院における患者さんの診療等を支える業務に長年にわたって精励し、本学医療の資質向上に貢献されています。



第93回大学報編集委員会

日 時：平成24年1月19日(木) 午後4時～午後5時

出席委員：影山 雄太、齋野 朝幸、藤本 康之、小山 薫、佐藤 仁、下山 佑、佐々木 光政、佐々木 さき子、米澤 裕司、赤松 順子、佐々木 忠司、武藤 千恵子、野里 三津子

お知らせ

個人からの寄付に係る所得税の税額控除制度導入について

本法人に対する個人からの寄付金の税制上の優遇措置は、これまで「所得控除制度」が適用されていましたが、平成23年度の税制改正により、平成23年1月1日以降のご寄付に対して「税額控除制度」の適用が可能となりました。

このことにより、現在、「所得控除」と「税額控除」の2つの制度の適用が可能であり、どちらか一方の制度を寄付者の選択によりご利用いただくことになります。

なお、寄付金の種類によっては本制度が適用されない場合がありますので、ご不明な点は企画部企画課(TEL 019-651-5111(内線7022・7023)FAX 019-624-1231 E-mail:kikaku@j.iwate-med.ac.jp)までお問い合わせください。

<税額控除額の算出式>

$$\left[\text{税額控除対象寄付金（※1）} - 2,000 \text{ 円} \right] \times 40\% = \text{税額控除額（※2）}$$

※1 寄付金支出額が、総所得金額等の40%に相当する金額を超える場合には、40%に相当する額が税額控除対象寄付金となります。

※2 控除対象額は、所得税額の25%を限度とします。

誌面の訂正と お詫び

大学報VOL.423の1ページ文中に誤りがありましたので、次のとおり訂正の上、お詫びいたします。

(誤) 附属花巻温泉病院 病院長 猪股 義男

(正) 附属花巻温泉病院 病院長 猪又 義男

編集後記

昨年は未曾有の大災害に見舞われ地震と津波により甚大な被害を受けましたが、今年は“一陽来復”(陰が極まって陽が返ってくる)の言葉のように被災地の方々に明るく穏やかな毎日が戻る一年になって欲しいと思います。教職員の皆様も新たな目標を胸に一年のスタートを切ったことと思いますが、日々の積み重ねを明日への土台とし、また1日でも早い被災地の復興につながるように今年一年を過ごしたいものです。

(編集委員 細川 幾恵)

岩手医科大学報 第424号

発行年月日 平成24年1月31日

編集 岩手医科大学報編集委員会

事務局 企画部 企画課

盛岡市内丸19-1

TEL 019-651-5111(内線7022)

FAX 019-624-1231

E-mail:kikaku@j.iwate-med.ac.jp

印刷 河北印刷(株) 盛岡市本町通2-8-7

TEL 019-623-4256

E-mail:office@kahoku-ipm.jp

すこやか スポーツ医学講座 No. 33

内科学講座
呼吸器・アレルギー・膠原病内科分野

助教 佐々木信人



喫煙 + 歯周病 = 関節リウマチ

喫煙は肺癌を始め様々な疾患の発症および増悪因子として知られております。特に日本人男性の喫煙率は欧米に比べ飛び抜けて高く約二倍と言われております。禁煙薬が保険適応されて徐々に低下しておりますが、いまだにやめられない方も多く肺癌が日本人男性死亡原因の第1位になったことは皆さんご存じの通りです。当科での入院も私が入局した10数年前と比べ様変わりし、気管支喘息の入院が減り喫煙者の肺癌がほとんどを占めております。いろいろとたたかれていた煙草ですがリウマチとの関連も報告され始めました。特に男性関節リウマチ患者では発症に深い関わりがあることが最近の知見で明らかになっております。

関節リウマチ発症には遺伝因子と環境因子が関わっております。遺伝因子として Shared epitope : HLA-DR4 と総称される HLA-II 遺伝子のうちの特定のサブタイプを有するものが関節リウマチ患者群に多いことが報告されております。Shared epitope をもつ喫煙関節リウマチ患者の気管支洗浄液を解析したところ生体内では検出されないシトルリン化蛋白が検出されました。このシトルリン化蛋白は関節リウマチの新しく発見された重症化に関連する抗体である抗シトルリン化蛋白抗体 (CCP 抗体) の抗原となり関節リウマチを発症する経路が想定されております。

喫煙によるもう一つの発症機序として喫煙→歯周病悪化=関節リウマチも報告されております。一番の歯周病増悪因子=喫煙はご存じの通りです。発症機序としては歯周病原菌である *Porphyromonas gingivalis* はシトルリン化蛋白を口腔内で産生し、シトルリン化蛋白が体内に入ることにより CCP 抗体が産生されることが報告されております。

禁煙で関節炎が改善する報告もあり関節リウマチ患者には喫煙が発症および治療抵抗性に深くかかっています。肺癌および COPD 患者さんと同様に関節リウマチ患者さんも禁煙指導から始めます。その際に山内教授から教えて頂いた世界一有名な双子の写真を使用するのですがなかなか納得して頂けない現状があります。



写真…
⑤ 喫煙歴20年
⑥ 非喫煙者

写真資料：BBCNEWSホームページ (<http://news.bbc.co.uk/2/hi/health/1566191.stm>) より転載

救援物資、震災募金への御礼

この度の東日本大地震・大津波大災害に際しましては、多くの皆様から救援物資並びに募金をお寄せいただいております。皆様からの温かいご支援に対し心より御礼申し上げます。

岩手医科大学震災募金のご案内

東日本大地震・大津波大災害に際し、被災により学業継続が難しい学生に対する経済的支援や今後年単位で続く事が予想される被災地への地域医療支援のための資金、大学の教育施設の被災復興を目的として、岩手医科大学震災募金活動を行っております。

皆様からのご協力をいただきますようお願い申し上げます。

なお、手続き方法等については企画部企画課 支援受付担当までお問い合わせください。

<お問い合わせ先>

岩手医科大学企画部企画課 支援受付担当
〒020-8505 岩手県盛岡市内丸19-1
TEL 019-651-5111 (内線 7022・7023)
FAX 019-624-1231
E-mail : kikaku@j.iwate-med.ac.jp

